

今年も好調、専修講座

5年目を迎えた『こうべまちづくり学校専修講座』は、今年度も7コースが9月から開講しました。受講者は延べ303名で皆さん真剣に取り組んでおられます。今年も講義形式だけでなく、ワークショップ等の参加型や現地に足を運び現場に学ぶ講座など、関心が絞り込みやすいよう各種の形式の講座で構成しています。

今回は、この中から「Fコース：まち歩き実践ゼミ」と「Gコース：まちに刻まれた土木を訪ねる」の2コースの様子をご紹介します。

《まち歩き実践ゼミ》

今年のテーマは、「自ら発見!まちかど魅力探訪ウォーク」。市内の4つのそれぞれに特色のある地域で、まちの魅力を再発見する現場に学ぶ講座で、第1回目は「御影・岡本を巡る/山の手文化編」が行われました。阪急御影駅に集合、まちの魅力を探訪する岡本地区へ向けて出発。その間に御影駅から北上し、閑静な邸宅街の中を灘目の水車や旧乾邸などのまちの魅力スポットを見ながら、白鶴美術館へ。その後、住吉川沿いの清流の道をJRまで南下、つぎにマンションの増えた西岡本地区を通り、多くの学生が集うキャンパスの街「岡本」へ向かいました。



灘目の水車(東灘区住吉山手)



岡本好文園ホール(東灘区岡本)

水戸偕楽園にある「好文亭」にちなんで名付けられ、誰でも利用できる文化スポットとして活用されています。

また、「好文」は梅の別名でもあります。かつて岡本梅林は神戸の名所のひとつだったのです。

岡本のまちでは、私立の集会所「岡本好文園ホール」で、「美しい街岡本協議会」の橋谷会長から岡本のまちづくりについてのお話を伺った後、各自、まちの魅力探訪へ出かけ、再度ホールに集まり意見交換を行いました。

橋谷会長からは、「阪急岡本駅やJR本山駅が梅の時期だけの臨時駅だったこと/岡本駅前には、長い塀の続く閑静なお屋敷の町であったこと/しかし、しだいに人も増え、駅も常設駅となり、お屋敷が無くなり一般の家や商店が増えていったこと/だから今、住まいと商店の共存のあり方の追求が大切なこと/そして協議会が『まちづくり協定』や『地区計画』を作っ

てきたこと/しかしまた、協議会だけではまちづくりができないので、商店街等と協力しながらまちの整備を行ってきたこと/そしてまちづくりには『バカ』が要ること」との思い入れのある話がありました。

まち探訪の後、「まちにゴミが落ちておらず、地域の方の努力が伺えた/まさに掃除している人も見た/狭く電柱もあり車も多い道だが、自然体で歩行者優先になっている」などの感想を出しあい、第1回目を終えました。

《 まちに刻まれた土木を訪ねる 》

今年4月、布引水源地下水道施設が国の重要文化財に指定されるとの発表がありました。このコースは、身近なところにある土木構造物が果たしている役割や魅力を知る講座で、今回は、布引ダム完成（明治33年）よりも10年も前に建設され、今なお現役の水利施設「淡河疏水」と、阪神大震災を乗り越えて建設された世界最長の吊橋「明石海峡大橋」の2つのテーマを紹介します。

淡河疏水



淡河山田川疎水『兵庫県土地改良史』より

ねりべや
※1 練部屋分水工（西区神出町）



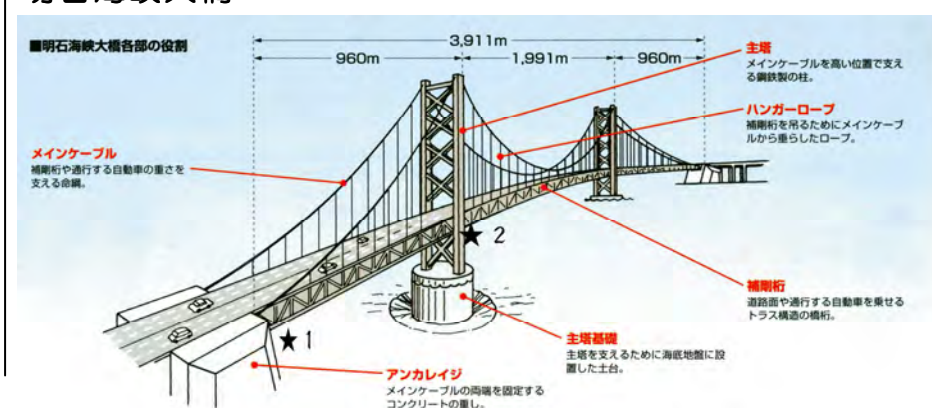
※2 御坂サイフォン（三木市志染町）



淡河疏水は、安積疏水、琵琶湖疏水とともに、わが国を代表する疏水事業として知られていますが、他の疏水事業が国策事業としての性格を持っていたのと違い、印南野台地の村々が、畑作地としての利用しかできなかった印南野台地を水田に変えようと自ら計画し、自らの資金で建設しようとした「地域の人々による地域の人々のための疏水」でした。この疏水は、北区淡河町の頭首工（取水堰）から西区神出町の練部屋分水工までの幹線2.0km、受益灌漑面積約1,100haの規模で、明治23年に完成しています（9月16日午前の神吉先生（神戸大学）の講義より）。

志染川を越える美しい石積の橋の中を通る「御坂サイフォン」や、各村の権利割合に応じて厳密に分水するために作られた「練部屋分水工」などを見学し、当時の技術力の高さに感心しました（同日午後の現場見学にて）。

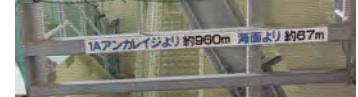
明石海峡大橋



★1 補修用通路への出入り口



★2 見学の終点、主塔の下にはこんな表示



明石海峡大橋は、昭和63年5月現場着手、平成10年4月完成供用となった主塔間1,991mの世界一の吊橋で、神戸市内で唯一ギネスブックに載っているものです。橋のふもとにある「橋の科学館」で、映像を使っての説明と展示の解説で橋についての概要が学べます。また、アンカレイジから大橋の橋桁内部に続く部分にある橋の展望台は、移情閣が真下に見え、大阪湾が一望できるなど絶景が楽しめます。私たちは、橋の維持管理の様子や、淡路島への水道管等が通っている明石海峡大橋の裏の姿を学ぶために下段デッキへ、下段といっても海上約70mあり、床は「すのこ状」、空中に浮いているようで足がすくみます。

「明石海峡大橋は、建設途中で阪神大震災に見まわれ、基礎の位置等に約1mのずれが生じましたが、それも克服して完成させることができました」との苦労話も聞きました（10月7日の本四連絡道KK神戸管理センター川戸専門役の案内による）。

花と緑のまちづくり

第8回神戸まちなみ緑化コンクール

「神戸まちなみ緑化コンクール」は、今回で第8回目となりましたが、毎回多数の応募があり、市民の花と緑への関心の高さが表れています。

こうべまちづくりセンターは、市民の皆さんが緑化に関心を持ち、豊かなまちの環境を、つくり育まれるのを少しでも応援できればと思い、第1回目から協賛しています。今回は、その地その場の特性に配慮し、美しいまちなみの形成に努力されている個人や団体（応募総数 177 件）の中から『神戸まちなみ緑化大賞』、『こうべまちづくりセンター賞(住宅緑化部門/まちなみ緑化部門)』などに 32 点が選ばれ、10月21日神戸総合運動公園で開催された“グリーンフェスタこうべ2006”の会場で表彰されました。



神戸まちなみ緑化大賞（住宅緑化・西区）

「綺麗な花ですね」と言われてから、花をたくさん植えるようになったとのこと。道行く人が四季折々の花が楽しめるように工夫されています。また、安全に見てもらえるよう側溝には木道が設置されています。日々のご努力に感服！



こうべまちづくりセンター賞
(住宅緑化・西区)

華やかな花の色と花壇に植えられたコニファーの銀葉や門扉周辺のレンガの色がマッチして、やさしい雰囲気になっています。



こうべまちづくりセンター賞

(まちなみ緑化・長田区みずまる保育園)
色鮮やかな花に囲まれて子供たちも楽しそうです。ボリュームいっぱい、遠くから見てもお花畑のようで通る人の目もひきつけます。

「神戸まちなみ緑化コンクール」は、(財)神戸市公園緑化協会が例年4月に神戸市内の住宅、店舗、オフィスビルなどを対象に春季の花や緑のある景観を写真で募集。一次審査で選ばれた箇所を現地調査し、本審査により大賞以下各賞を決定・表彰するもので、毎年多数の応募があります。

(お問合せ先：公園緑化協会公園部花と緑のまち推進センターTel351-6756)

資料提供：(財)神戸市公園緑化協会

こうべまちづくり会館 企画展

会館地下1階ギャラリーにて (入場無料)

青山政吉水彩画名品選

甦る うるわしき日本の山河



奥入瀬・溪流 青森県(1991年10月)

出品作品 日本百景より 30点
万葉百景より 7点

開催日 11月16日(木)～12月5日(火)
水曜日休館

開館時間 午前10時～午後6時

主催 こうべまちづくりセンター

協賛 元町商店街連合会

後援 神戸市・神戸市民文化振興財団
みなと元町タウン協議会
神戸市教育委員会

青山政吉氏は、大正9年(1920)、現在の兵庫
県川西市に生まれ、京都市立絵画専門学校(現京都
市立芸術大学)日本画科を卒業、併行しながら油彩
画を制作し、和洋の特質をあわせもつ独自の絵画世
界を築きました。34歳で渡欧、立体派の理論と実
技を学びました。

平成6年(1994)に亡くなるまで、孤高の道を
つらぬき、水彩画に新しい美を注ぎこんだ青山政吉
氏の描いた、美しい日本の山河、清らかな自然の
数々を多くの神戸の方々に鑑賞していただくため
に本展を企画いたしました。清らかな色彩の叙情詩
を心ゆくまでご鑑賞下さい。

今回の企画については、青山政吉氏のご家族の
方々、神戸市立博物館の多大の協力を得ておりま
す。

まちづくり会館展示のお知らせ

1階オープンギャラリーの予定

期 間	内 容 ・ テーマ	主 催 者
10月16日(月)～31日(火)	東南海・南海地震に備えて パネル展	危機管理室
1月 2日(木)～30日(木)	メロディブリッジコンテスト・土木の教室	建設局道路部計画課

地階ギャラリーの予定

期 間	内 容 ・ テーマ	主 催 者
10月27日(金)～31日(火)	フランス額装飾 坂本宣子&生徒作品展	額装工房アールデコ
11月 2日(木)～ 7日(火)	神戸美術学林展《油彩・水彩》	神戸美術学林
11月 9日(木)～14日(火)	チェリーの会 作品展《油彩》	チェリーの会

すまい・まちづくりのご相談は

- すまい・まちづくり人材センター(まちづくり会館3F)
電話 078-361-4523 ・FAX 078-361-4546
受付は、午前10時～午後5時(水曜日休館)
※土・日・祝日のご相談、JIBANKUNの閲覧につ
いては、事前にご連絡ください。

自治会活動などのご相談は

- コミュニティ相談センター(まちづくり会館4F)
自治会の運営等の相談、会報等の印刷サービス

電話・FAX 078-361-4565
受付:午前10時～午後6時(水曜日休館)
ただし印刷は、5時まで



最寄駅

地下鉄海岸線 みなと元町駅西口から1分
高速 花隈駅東口から3分
高速 西元町東口から5分
JR・阪神 元町駅西口から8分